

## ◆事業方針（計画等における位置付け）

小平市教育振興基本計画において、開かれた学校作りと地域の教育力の再構築を図るものとして、小平地域教育サポート・ネット事業の推進（＝学校支援ボランティア推進協議会事業の推進）を掲げている。

## ◆地域学校協働活動（学校支援活動を含む）の実施体制（特徴・工夫等を含む）

小平市では、学校支援活動・放課後子供教室・地域未来塾ともに、連携を図りながら実施している。このうち、学校支援活動と地域未来塾は直営で実施し、放課後子供教室は地域の方々が組織する実行委員会に委託して実施している。

学校支援活動では、学校支援地域本部（地域学校協働本部）を一本部とし、本部の中に全ての学校が入る仕組みとなっている。

各学校にはそれぞれ特色・地域性・経営方針等の違いがあることから、一律にコーディネーターを配置するのではなく、校長が学校・地域から信頼されている方をコーディネーター世話人として教育委員会に推薦し、教育委員会が委嘱することとしている。

## ◆運営委員会

運営委員会は、教育長をはじめ、小・中学校のコーディネーター代表者等から構成されている。年度当初に開催し、事業の推進に関する連絡調整や協議、各校の情報交換等を行っている。

## ◆広報活動（パンフレット、HP 活用、広報誌、報告書など）

教育委員会だよりで、学校支援ボランティアの活動の様子や、各校のコーディネーターの紹介を行っている。

また、毎年小学校新一年生の保護者に、事業を紹介する冊子を配布し、学校支援ボランティアの活動への理解や、参画を促すよう取り組んでいる。



## ◆コーディネーターの育成・交流の機会提供や学校に対する事業理解促進

コーディネーターの人材育成として、年3回程度研修会を実施し、コーディネーター入門講座やスキルアップ講座、コーディネーター同士の情報交換を行っている。

学校に対する取組として、他区市から小平市に着任した校長に対し、学校を訪問して事業の趣旨等を説明している。その際、可能な限り副校長にも同席してもらい、事務的な事柄も説明している。

また、小学校の副校長とコーディネーターとの情報交換会や中学校の副校長又は校長とコーディネーターとの情報交換会なども、それぞれ年1回開催している。

## ◆成果

年間を通じて延べ2万8千人を超えるボランティアの参加があり、地域の人たちの力を借りて、学校図書館や花壇等の環境整備が図られ、今まで実現できなかった授業を行うことができています。そのことによって子供達の学習や体験の幅が広がり、様々な人との出会いが子供達の夢や地域に対する関心などを育てることにもつながっている。

社会人ボランティアにとっては、子供から元気もらえる、生きがいとなる事業、学生ボランティアにとっては、自分の将来に役立つ事業となっている。

## ◆課題・展望

各学校において、コーディネーターを中心に、地域人材・NPO・企業・行政などあらゆる資源やネットワークを有効に活用しながら、各校の実情やニーズに応じた支援活動が展開されており、これらの取組の維持・充実を図っていきたい。

各校が相互に参考とできるよう、市内全校の活動事例を集約した実践事例集を作成しており、引き続き情報の共有化に努めていく。